

1 対象年次、単位数、使用教科書

2年次～4年次、2単位
 社会と情報 水越 敏行 村井 純 生田 孝至 編 (日本文教出版)

2 科目の目標

情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を理解させ、表現やコミュニケーションにおいてコンピュータなどを効果的に活用する能力を養うとともに、情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解させ、情報社会に参加する上での望ましい態度を育てる。

3 評価規準 (何を評価するか)

レポート (提出時期)
 スクーリング出席時間数
 試験

4 評価基準 (どんな方法で評価するか)

レポート	・上記レポート目標の基本的な部分のみ理解している場合は、理解度に応じて評価2～3、発展的部分まで理解できていると判断する場合は評価4～5とする。基本的な部分が理解できていない場合は再提出とする。
------	---

5 試験範囲と試験による評価基準

- ①R 1～3の範囲で7月試験を、R 4～6の範囲で10月試験を実施。試験内容は基本的な部分から約50%、発展的な部分から約50%を出題し、**評価は30～40点を2、41～70点を3、71～80点を4、81点以上を5とする。なお、29点以下については再試験とする。**
- ②再試験を繰り返してもなお基準点(30点)に達しない場合は1とし、単位認定はしない。

6 スクーリングの目標・内容・計画

スクーリングに取り組む姿勢を考慮し、学年末評価の参考資料とする。
 0～5時間は単位認定はしない。

R回数	項目	内容	区分	レポート標準提出時期
R 1	情報の活用と表現	情報とメディアの特徴 情報の表現と伝達	P17～p33	5月上旬
R 2	情報の活用と表現	情報のデジタル化	p34～P54	5月下旬
R 3	情報通信ネットワークとコミュニケーション	コミュニケーションとメディア 情報通信ネットワークの活用と コミュニケーション	p55～P79	6月中旬
R 4	情報通信ネットワークとコミュニケーション	情報通信ネットワークのしくみ	P80～P98	7月下旬
R 5	望ましい情報社会を構築するために	情報化が社会に及ぼす影響と課題 情報社会における情報システム	P99～p127	8月下旬
R 6	望ましい情報社会を構築するために 情報社会と問題解決	サイバー犯罪とセキュリティ対策 よりよい情報社会を目指して 総合実習	p128～ p150 p151～ p165	9月中旬